市長メッセージ

「第２７回広島ワールド ピース フラッグ セレモニー」が開催されるに当たり、メッセージをお送りいたします。

１９４５年８月６日８時１５分、広島の空に「絶対悪」である原子爆弾が炸裂し、立ち昇ったきのこ雲の下、何の罪もない多くの命が奪われ、街は破壊し尽くされました。かろうじて生き延びた被爆者も脳裏に焼き付いた地獄絵図と放射線障害により、心身は蝕まれ、今なお苦悩の根源となっています。

あれから７４年、世界にはいまだ１万４千発を超える核兵器が存在し、意図的であれ偶発的であれ、核兵器が炸裂したあの日の広島の姿を再現させ、人々を苦難に陥れる可能性が高まっています。また、世界では自国第一主義が台頭し、核兵器の近代化が進められるなど、各国間に東西冷戦期の緊張関係が再現しかねない状況にあります。人類は、歴史を忘れ、あるいは直視することを止めたとき、再び重大な過ちを犯してしまいます。だからこそ、私たち市民社会は、「ヒロシマ」を「継続」して語り伝え、核兵器廃絶に向けた取組が、各国の為政者の「理性」に基づく行動によって「継続」するようにしなければなりません。

一昨年、核兵器禁止条約の成立に貢献した ICAN がノーベル平和賞を受賞するなど、被爆者の思いが世界に広まりつつあります。被爆の実相を知り、核兵器のない世界の実現に向けた努力を行うことの重要性が改めて認識されるようになる中、各国の為政者には、NPT（核不拡散条約）に義務付けられた核軍縮を誠実に履行し、さらに核兵器禁止条約を核兵器のない世界への一里塚とするための取組を進めることが求められています。

為政者が「理性」と洞察力を持って核兵器廃絶に向かって行動するために、市民社会は多様性を尊重しながら互いに信頼関係を醸成し、核兵器廃絶を人類共通の価値観にしていくことが重要です。そうした意味から、皆様が核兵器のない平和な世界の実現に向け、今年も「広島ワールド ピース フラッグ セレモニー」を開催され、国や人種、宗教等の違いを超え、世界各国の平和を祈り、その願いを世界に向けて発信されることは誠に意義深く、その取組に対し深く敬意を表します。

本市も、世界の１６３か国・地域の７，７００を超える平和首長会議の加盟都市とともに、為政者の行動を後押しする環境づくりに全力で取り組んでいく所存です。皆様には、今後とも「絶対悪」である核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向け、共に力を尽くし行動してくださることを心から期待しています。

終わりに、「第２７回広島ワールド ピース フラッグ セレモニー」の御成功と御参会の皆様の今後ますますの御健勝と御多幸を心よりお祈りいたします。

令和元年（２０１９年）８月６日
広島市長　松井　一實